

## 「こんにちは！知事です」（令和2年7月7日（火）つがる市立稲垣小学校） 概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、つがる市立稲垣小学校での実施概要をお知らせします。

4年生の皆さんによる雑紙回収など学校や地域全体での取組紹介後、代表児童4名と知事が意見交換を行いました。

（参加：第4～6学年児童73名）

### （発言児童1、5年男子）

僕の母方の祖父は米農家で、僕の父方の祖父はりんご農家です。二人が働く姿を見て、僕も将来、農家になろうと思っています。でも、「昔より米の値段が安くなったり、機械が高くなったりして農家は大変だ」と聞きました。

総合的な学習で、青森県の農作物の良さを他の県や国の人に知ってもらえば、値段が高くても買ってくれるし、農家も助かると勉強しました。それに、たくさんもうかるなら、若い人たちも農家になろうと地元に残ってくれるし、青森県の人口は減らないと思います。

青森県では、農作物を高く買ってもらうために、どんなことをしていますか。



### （知事）

農作物を高く買ってもらうために、いろいろやっています。

つがる市では「まっしぐら」をたくさん作っているけれど、米の値段がすごく下がって大変だという時に「青天の霹靂」を売り出しました。そうしたら「青森って、りんご、にんにく、ながいもだけじゃなくて、米もすごいんだ。」となって、「まっしぐら」や「つがるロマン」の値段が千円くらい戻りました。それで何とか青森県の米農家が頑張れるようになりました。

稲垣はいい米を作ってくれる地域として、すごく期待しています。特に「まっしぐら」は「特A」評価を受けたし、輸出もしていますが、県内でもすごく売れています。もちろん「青天の霹靂」も売っていますが、青森県の米の売上げのうち、今は7割近くが「まっしぐら」です。

その「まっしぐら」をいかに値下げせずたくさん売るかを考えたり、野菜などいろいろ作ったりしていて、特につがる市ではブロッコリーやメロンなど、とてもいいものがとれますので、「攻めの農林水産業」として、いろいろなセールスなどを頑張ってきたら、農業所得が2倍以上に増えました。これからは農業の時代だから、ぜひ農家に。絶対にいいと思います。

### （総合販売戦略課）

青森県の農林水産物で全国トップクラスのものを紹介します。

まずは、生産量1位のりんご。りんごは日本国内だけでなく、世界へも輸出しています。知事も国内だけでなく、海外へも一生懸命りんごを売りに行っています。ほかにも、ごぼう、にんにく、イカが全国1位です。

ながいもやマグロ、しじみ、ほたて、ひらめは全国2位です。全国3位はだいこんとかぶ。全国4位はにんじん。つがる市でよくとれるメロンは全国5位です。このほか、にわたりの卵や豚肉も10位以内に入っています。



### (知事)

にんにくの県内生産量は全国の7割、ごぼうは3割を占めています。

### (総合販売戦略課)

皆さんはまだ飲めませんが、お酒もすごいです。それからおいしい牛肉もあります。

県では、全国の皆さんにいろいろな県産品を知ってもらおうと、青森産品情報サイト「青森のうまいものたち」で紹介しています。フェイスブックやインスタグラムなどのSNSでも、いろいろな農産物や水産物の情報を発信したり、料理の作り方や食べ方を紹介したりしています。

また、知事と一緒に、県内のスーパーなどはもちろん、東京、四国、九州、沖縄など全国各地、そしてアジアなど、いろいろなところに行って「青森県産品はおいしいよ」とPRしています。

青森ブランドとしては、「特A」評価を受けた「青天の霹靂」や、ついに今年全国デビューしたサクラambo「ジュノハート」があります。先日、知事が大阪と東京に行ってPRしてきました。

### (知事)

初競りでは1個2万円で、驚きました。でも通常は1個300～500円くらいで、「青森ハートビート」は千円くらいです。

### (総合販売戦略課)

大きさや色つやなどが優れている「ジュノハート」には「青森ハートビート」という名前を付けて売っています。

そのほか、今年の秋にデビューする「青い森紅サーモン」は青森県期待のサーモンです。

このように県ではいろいろな方法で全国の皆さんに県産品をPRしています。

その結果、平成14年に比べて、1戸当たりの農業産出額は約2.4倍に増加しましたし、1戸当たりの農業所得も2.1倍になりました。

そして、農業がもうかる職業になってきたので、最近では新たに農業を始める人が増えてきています。平成30年は新たに農業を始めた人は256人でしたが、学校を卒業してすぐに農業を始める新規学卒者、一度県外で就職してみたけれどやっぱり農業をやりたいと言って青森に帰って来るUターン者、全く別の業種から青森で農業をやってみようと農業を始める新規参入者を合わせて、毎年250人くらいの方が農業を始めています。

### (知事)

このままの調子で、頑張って農家になる人が増えてくれるとすごくうれしいです。一度はどこかでほかの仕事をするのもいいけれど、いつかはUターンしてきてください。

### (総合販売戦略課)

県産品をたくさん買ってもらうためには、県民の皆さんに信頼して選んでもらうことや、地域で作ったものを地域で消費する「地産地消」の取組を進めることも大切です。

県では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による本県経済への影響を和らげるために、県産品を買ってもらおうと「県産品を買って元気あおもりキャンペーン」を5月15日から7月14日まで開催しています。お店で県産品を500円以上買って応募すると、抽選で豪華な賞品が当たります。

また、7月1日からは「あおもり飲食店ありがとうキャンペーン」も始めました。対象の食堂やレストランなどの飲食店で500円以上利用し、応募すると、抽選で千名に県産品が当たります。県産品をたくさん食べてもらおうという取組で、8月31日までなので、皆さんもぜひ応募してください。

### (知事)

青森県では10～30代の若い農業者が増えてきています。君の仲間がこれから必ず増えるから。

あと今はスマート農業といって、IoTを使った農業の近代化が進んでいます。土地改良事業とスマート農業と一緒に進めば、すごく面白くなってきます。

将来、約束どおり農家になってください。

特に何を作りたいですか？



### (発言児童1)

米とりんごです。あとトマトも。

### (知事)

この地域は革新的で先端的な農業を最初に始めた地域で、複合農業でブロッコリーやトマトなどの生産が始まりました。

### (西北地域県民局長)

つがる市は米が主体の地域ですが、そのほかにもブロッコリーが盛んに作られています。

ブロッコリーは、一つ一つ生育の進んだものから採っていくのですが、それを機械でできないかと、先日、スマート農業の一環として、一気にブロッコリーを収穫する収穫機械の実演会を行いました。1台800万円くらいする少し高価な機械なのですが、この地域がもっと産地化していくと、この機械を使って一気にブロッコリーを収穫することもできます。また、今は米もスマート農業として機械化がかなり進んでいます。ロボットトラクターも、1台は人間が操縦し、もう1台は自動化され、2台一緒に作業をするというものや、手を放していても大丈夫な田植え機も出てきました。今、中泊町で使われています。

未来ある農業が今そこに来ているので、ぜひ皆さんも農業に目を向けてみて、すぐに就農してもいいし、ほかで働いてから農業に戻ってきてもいいので、何とか農業を盛り立ててほしいと思います。

**(知事)**

ゲームをする人も多いと思いますが、実はゲームをやっている感覚が意外とIT化したスマート農業に向くような気がします。でもゲームだけではなくて勉強もしてください。

最初から農業をやってもいいし、いろいろなところで勉強をしてきてからでもいいので、将来に期待しています。

**(発言児童2、5年女子)**

私は、小さい子どもが好きなので、将来保育士になろうと思っています。でも、今は稲垣地区に4つあった小学校が1つになってしまうくらい少子化が進んでいます。このまま子どもが減っていくと保育士が必要なくなってしまう。

つがる市では中学生までの子どもの医療費を無料にするなど、若い人たちでも子育てがしやすく、住みやすくなるような取組をしています。青森県全体でも子どもの医療費を無料にすると、保育園や幼稚園は子どもでたくさんになると思いますが、青森県では少子化に対してどんな対策をしていますか。

**(知事)**

青森県内で保育士になりますか。

**(発言児童2)**

はい。



**(知事)**

約束だよ。ぜひ青森県内で保育士になってください。

つがる市でもいろいろやっていますが、県でも子どもたちをどんどん増やすためにいろいろとやっています。

**(こどもみらい課)**

青森県で生まれてくる子どもの数は年々減少しています。昭和50年は24,000人くらいでしたが、令和元年度は7,170人にまで減少しています。おそらく、皆さんが生まれたのは平成20~23年頃だと思いますが、その頃と昨年度を比べると3,000人くらい減っています。

子どもの数が減るとどうなるかというと、4つあった小学校が1つになってしまったり、みんなでサッカーや野球、バレーボールをしたくても人数が少なくてできなったりします。また、子どもの数が減るということは、将来の青森県の人口が減ることになります。そうすると働く人も少なくなって困ってしまいます。

そこで、県では、生まれてくる子どもの数が減らないように様々な取組を行っています。

どうして子どもの数が少なくなっているのか県でアンケート調査を実施したところ、お金がかかるからという意見が多く挙げられました。ご飯を食べたり、服を買ったり、習い事をしたり、病院に行ったりすることでお金がかかるので、このような負担を軽減するために、つがる市も含めて各市町村では子どもの医療費を支援しています。



例えば、病院に行くと本来は1万円かかってしまうものを無料にしたり、半分の5千円にしたりしています。また、各市町村によって、その支給対象が小学生までや、中学生、高校生までと異なっています。県では、その各市町村が支給している子どもの医療費の一部を負担しています。

また、あおり子育て応援パスポートを発行し、パスポートに書いてあるマークがあるお店でパスポートを提示すると割引などのサービスを受けられる制度も整えています。

子どもを育てていくことはすごく大変なので、地域の人たちみんなで子育て家庭を応援しようという気持ちを持ってもらい、みんなで助け合いながら子育てする環境を作ることも必要です。そのために、動画・写真コンテストや子育て応援イベントも実施しています。

最後に、将来の夢である保育士についてお話しします。

保育士は少子化対策を行う上で重要な仕事です。お父さんやお母さんが子育てをしながら安心して働くためには、保育所そのものだけではなく、そこで子どもの世話をする保育士もすごく重要です。

保育所は県内にたくさんありますが、保育士が県外にどんどん出て行ってしまっているのが、県内で保育士を育てていくことが大切だと考えています。

保育士になるには、大学や専門学校などを卒業することや保育士試験に合格することが必要です。保育士になりたいという今の気持ちを大切に、ぜひ将来は青森県で保育士になってください。

### (知事)

なぜ子どもの数が少なくなっているかという、結婚する人が減ってきているからです。

そこで、県では結婚や妊娠・出産などの支援もいろいろやっています。また、医療費について県でも一部負担するなど、みんなが病院に行った時に助ける制度もきちんと用意しています。

それで、出生率は青森県も全国並みにはなりました。最近、国の出生率が下がってきており、本県もその影響を受けていますが、現在、青森県の出生率は全国平均より少し高いです。

次に、子育て環境ですが、待機児童はゼロ（全国1位）、認定こども園の認可・認定件数は全国1位、学童保育の充実度は全国12位です。また、育児をしている女性の有業率は全国10位、育児をしながら仕事をしている女性の数は全国1位です。仕事と育児を両立している人が多く、すごくいい状態です。

青森県の女性の活躍はすごく、女性社長の割合が全国で一番高いです。部長や課長などの管理職についている女性の割合は全国5位です。

このように女性が活躍できる青森県ですので、ぜひみんなには、青森県で活躍をして、できたら結婚もしてみたいと思っています。

ですので、ふるさと青森で保育士になることを目指して頑張ってください。

### (発言児童3、6年女子)

私は、将来医者になってたくさんの命を助けたいと思っています。また、新型コロナウイルス感染症対策で医療従事者がリスクを省みず働いている姿を見て力になりたいと思いました。



青森県では「短命県返上！」を合言葉に様々な取組をしていますが、どうして青森県が短命県なのかを調べると、塩分や糖分の摂取量が多いことや運動不足などで、生活習慣に乱れがあること、健康診断を受ける割合がとて低く、症状が出てから受診するためのがんの死亡率が高いことが分かりました。

そこで、短命県を返上するために、食生活の改善や健康診断率アップなど、普段の生活を見直すことができるような青森県の取組を教えてください。



### (知事)

今日はその質問に答えるために、各部署からメンバーを集めてきました。

### (がん・生活習慣病対策課)

まず、青森県の平均寿命は全国最下位です。死亡の原因は三大生活習慣病とされている、がん、心臓の病気、脳の血管の病気で半分以上を占めています。

大事なことは、まずはバランスのとれた食事、好き嫌いをなく食べることです。野菜は大人で1日350g食べることを目標にしています。皆さんですと300gくらいですが、目標まで少し足りていません。ミニトマトだとあと3～4個食べると300gになるので、いつもより少し多めに食べてください。

県では、塩分控えめや野菜たっぷりのメニューを出してくれる県内の食堂やレストランなどを「青森のおいしい健康応援店」に認定して、ステッカーを渡しています。

次にたばこです。皆さんはまだ吸えませんが、たばこはがんになりやすいので、注意してください。

### (知事)

たばこを吸うと肺が溶けて、真っ黒になってしまいます。

### (がん・生活習慣病対策課)

県の取組としては、たばこを吸わないようにしている施設や車などが分かるように「空気クリーン施設」「空気クリーン車」のステッカーを渡して貼ってもらっています。

また、健診については、「健康経営認定制度」として、従業員にきちんと健診やがん検診を受けさせたり、会社を「空気クリーン施設」に認定したりするなど、会社全体で従業員の健康について考えている会社を応援しています。

皆さんのお父さんやお母さんの世代でがん検診を受ける人はだんだん増えています。ただ、男性の受診率は約50%で、女性の受診率も少しずつ上がっていますが、まだ低いので、もっと上げたいと思っています。

県では、無料でがん検診を受けられるという取組も進めており、今年度はこうした取組を全市町村でやる予定にしています。

食事などのほかに、皆さんであれば、日頃から寝る前に歯を磨くことや早寝早起きなども心掛けてください。そして、将来はできるだけ、たばこを吸わないように、また、隣で吸っている人の煙を吸わないように気をつけてください。

#### **(知事)**

県では、食塩摂取量や野菜不足、生活習慣の問題などを改善していこうと、いろいろなところで「だし活」の取組を進めています。

#### **(総合販売戦略課)**

青森県民は「しょっぱ口」で有名で、1日の食塩摂取目標値の8gを超えて、たくさん塩分をとっています。カップ麺を汁まで飲んでしまうと、5～6gの塩分を一気に摂取してしまうこととなります。

#### **(知事)**

そうすると、早死にしてしまいます。40～50代で亡くなる方が多いのが青森県民の特徴です。原因は、飲みすぎ・食べすぎ・吸いすぎです。

#### **(総合販売戦略課)**

そこで、「だし活」の取組として、知事と一緒にスーパーなどで、減塩を心掛けてもらうこと、野菜をたくさん食べてもらうこと、あと千歩歩いてもらうことなどを呼び掛けています。

仮に、塩分をとり過ぎてしまったとしても、青森県にはたくさん野菜があります。「だし活」と合わせて、野菜を食べて、野菜に含まれるカリウムで体内の余分な塩分を出そうと、「だし活」＋「だす活」の取組もしています。

#### **(知事)**

それでは、だし活ダンスをやってみよう。

(だし活ダンス披露)

このようなことを県内のスーパーなど50～60か所で行っています。その結果、県民の野菜の摂取量は50g増えました。



#### **(総合販売戦略課)**

「だし活」は、「だしのうま味でおいしく減塩しよう」「健康な人がもっと健康になろう」と7年前に立ち上げた取組です。

青森県には煮干し、焼干し、ほたて、ごぼうなど、だしの素材がたくさんあります。農家や漁業者の所得向上も考えた上で、県産素材を使って「できるだし」などを作り、青森県民が減塩をして、健康寿命を延ばす、つまり長生きをして楽しく生きられるようにと始めました。

知事と一緒に割烹着を着てダンスをしながら「野菜も食べなければいけないよ」と皆さんに分かりやすく伝えるように努力をしています。この取組の成果もあって、5年前の青森県の野菜摂取量は目標値 350 g に対して 250 g だったのが、最近は 300 g にまで増えました。

青森県民の食塩摂取量は1日 10.6 g くらいで、野菜摂取量が増えると味付けするために、食塩摂取量も増えるかと思われたのですが、あまり増えていないので、減塩もうまく進んでいます。

野菜をあと 50 g とるための目安は、ミニトマトだと 5 個、きゅうりだと半分、にんじんだと 3 分の 1 本、なすだと小ぶりで 1 個、たまねぎだと 4 分の 1 個です。（新型コロナウイルス感染症の影響で）おうち時間も増えていると思うので、おうちの人と一緒に料理をする際に、野菜の量も少し気を付けてみてください。

### **(知事)**

大事なことは、野菜を食べることです。ラーメンを食べてもいいし、大人になってから酒を飲んでも、たばこも一応吸ってもいいけれど、とにかく野菜をたくさん食べると元気で長生きできるから。それから1日あと千歩歩くことも大切です。

それから、医者になるために大事なことをお話しします。

### **(医療薬務課)**

医者になるためには、高校を卒業したら、大学の医学部医学科で最低 6 年間勉強し、その後、国家試験に合格することが必要です。

そのために、学校での勉強のほかに、例えば解剖などの勉強をしたり、実際の医療現場で臨床実習をしたりするので、今のうちから勉強する習慣をつけておくことが大切です。

また、病院で働く医者が多いですが、そのほかにも、大学の教員になったり、研究機関で研究開発をしたりもします。

病院で働くといっても、医者 1 人だけで患者の治療をするわけではありません。看護師や薬剤師、介護関係者などとも協力しています。ですから、ただ勉強するだけではなく、友達と遊んだり、部活動に力を入れて仲間と取り組んだりするなどをして、チームワークの大切さを学んでください。

県の医師確保対策として、中高生向けには、病院見学をする医療チュートリアル体験事業や地元医師によるドクタートークなどを行っています。ホームページ「医ノ森 a o m o r i」で紹介しているので、検索してみてください。

### **(知事)**

医者になりたいと言ってくれてうれしいです。勉強をしないと医学部医学科に合格するのは難しいけれども、真面目に勉強をやっていればきっとなれるから。

将来は青森県に残りますか？

### **(発言児童 3)**

はい。





### (知事)

よかった。県内大学に入学しても、県外へ出て行ってしまう人が多いから。それでは、将来に期待しています。

### (発言児童 4、6 年女子)

私は、将来青森県で警察官として働きたいと思っています。

近年、青森県では人口減少や農業従事者の高齢化が問題視されています。若者が青森県から離れていく原因を調べてみると、商業施設や娯楽施設が少なく魅力がないこと、スポーツ選手が全国レベルを目指して練習できるような施設が東北 6 県の中で最下位であること、そして就職したいと思える職種が少ないことが分かりました。

青森県には若者が県内に残りたいと思える環境が少ないように感じます。若者の県内離れを防ぎ、働ける環境や施設整備、企業誘致など魅力ある青森県にして、人幸（口）を増加させるための今後の計画について教えてほしいです。



### (知事)

どうやって若い人たちに青森県の方を振り向いてもらうか工夫しながら、企業誘致を始めとして、働く場をたくさん作っていることについてお話しします。

### (企画調整課)

まず、現在の青森県の人口は約 123 万人です。毎年 1 万 5 千人くらいずつ減っています。小さい町が 1 つなくなるくらいです。皆さんが大人になっている 25 年後には、これが 82 万人まで減ると見込まれています。

人口が減っている原因として、生まれてくる子どもが少ないことや亡くなる人が多いことのほかに、就職や大学進学で県外に行ってしまう人が多いことも挙げられます。

県では、これまでにたくさんのしごとづくりを頑張ってきました。今では職種もたくさん増えていますし、農業ももうかるようになって、農業を始める人も増えています。

それでも、昔のイメージのまま、青森県には働く場所がないと思っている人も多いので、高校へ出前授業に行ってお話をしています。

仕事のほかにも、青森県にはいいところがたくさんあります。

例えば、東京だと毎日満員電車に乗って 2 時間くらいかけて通勤しなければいけません。青森だと車などを使って東京の半分くらいの時間で快適に通勤できます。また、安くて広い家を建てることができます。夏になったら家の前でバーベキューをする人もいるかもしれませんが、東京だとなかなかできません。また、野球やサッカーをやっている人もいるかもしれませんが、東京で野球やサッカーをすると、電車や車で遠くのグラウンドまで行かなければいけませんし、クラブ費も高いです。そして、東京では保育園に子どもを預けられないなど、青森では考えられないこともあります。

そのため、「青森は変わってきたよ」「東京に就職したとしてもいつかは戻っておいで」と PR しています。

### (商工政策課)

次に、魅力あるしごとづくりの取組を紹介します。

まずは創業・起業支援についてです。県では、自分のアイデアや技術を生かして新しい会社を興す人たちの支援をしています。

例えば、小さい子どもが誤って口に入れても大丈夫なように県産野菜を使ったクレヨンを作ったり、弘前市のりんご公園でりんごを使ったお酒やシードル、炭酸ジュースを作ったりしている会社のお手伝いをしています。

今、青森県では創業・起業の支援をすごく充実させており、金融機関、市町村、大学とも一緒になって支援をしています。

### (知事)

それで、青森で新しい仕事をする人がどんどん増えています。

### (商工政策課)

ここ4年間では、毎年100人を超える人たちがそれぞれの夢を実現して新しい会社を始めています。

次は、企業誘致についてです。県内には有名な企業が実はたくさんあります。

例えば、キューピーのパスタソースのほとんどは階上町で作っていますし、「YAHOO！」(ヤフー)のホームページの編集業務を行う企業が八戸市にあります。意外かもしれませんが、おしゃれた職場もたくさんありますし、ゲームアプリを制作する企業もあります。

こういう企業を県内に誘致するために、知事と一緒にいろいろな企業へ行って「青森で働きませんか」とPRもしています。

青森県民はとても真面目で優秀だということで、大企業からも信頼を得ています。

### (知事)

次に、警察官になるためのお話をします。

### (警察本部警務課)

警察官になるためには、高校や大学を卒業して、採用試験に合格することが必要です。

試験を受けられるのはまだ先ですが、今のうちからでもできることがあります。

1つは、ルールを守ることです。ルールというと学校のルールや家でのルール、交通ルールなどがありますが、こういった基本的なルールを守ることが大切です。警察は悪い人を捕まえることが仕事なので、皆さんの手本になるような生活態度をとるように心掛けてください。

もう1つは、警察官には悪い人を捕まえるための体力も必要です。採用試験でも体力テストがあるので、体力をつけておくことです。でも、これは難しいことではなくて、学校で体育をしっかりやって、そして、県産品を食べて、「だし活」をして、健康な体を作っていけば、必要な体力がついてきます。



最後に、青森県警では、たくさんの人に警察官になってほしいので、YouTube（ユーチューブ）で警察官の仕事を紹介する動画を公開しています。ぜひ、おうちの方と一緒に見てください。

### （知事）

ぜひ、将来は青森県で警察官になってください。

### （司会児童）

今日の意見交換で県民が健康で幸せに暮らせるように、青森県として日々計画を立て、実行していることが分かりました。

僕たちが大人になった時、今以上に魅力的な青森県になれるよう協力していきたいと思いました。

今日は貴重な御意見ありがとうございました。



### （知事）

それぞれ皆さんの青森県に対する思いや夢を聞き、本当に率直な意見交換ができたのでうれしく思います。

君たちの夢や未来が青森県の未来でもあり、日本の未来でもあります。君たち一人ひとりがこの故郷で自分の人生を頑張れるような基盤を作っていくために、今日聞いた意見や思いに県全体で応えていきたいと思います。

この稲垣小学校があってこそ君たちの未来があるのだと思いました。この小学校で感じたことや学んだことを忘れずに、それぞれ未来へ向かって歩いていってくれたら最高にうれしいです。

ありがとうございました。

